

# 写真で見る つるおかの今昔

鶴岡の風物や人々の暮らしについて、昔の写真と今の姿を比較しながら、その歴史をひもときます。

## 第2回 「化けものまつり」として親しまれる 天神祭



化けもの行列(大正・昭和初期頃)



化けもの行列



天神はんくねり



天満宮参道(昭和中期頃)



天狗舞(大正・昭和初期頃)



天満宮参道



お参り



天狗舞

菅原道真公を祭る鶴岡天満宮の例祭「天神祭」。別名を「化けものまつり」といい、5月25日の祭りの日は、花柄のじゅばんの裾をからげて着て、手拭いと編みがさで顔を隠した奇妙な姿の「化けもの」が練り歩き、市民や観光客に酒などを振る舞います。

毎年多くの人でにぎわいますが、江戸時代までは少し様子が違っていたようです。天満宮の祭礼の日、藩士たちが顔を隠し羽織を裏返しに着て、厳かな雰囲気の中参拝し、ひょうたんに入れた酒をお供えた後にお神酒を頂く習わしだったそうです。江戸時代後期、それに町人たちのにわか踊りや子供行列、天狗舞などが加わり、今日のような祭りに近づいていきました。

また、明治12年に書かれた『筆のすさみ』という旧藩士の日記に「化けもの」という言葉が見られることから、その頃に「化けものまつり」と呼ばれるようになったと考えられます。そして、いつの頃からか、誰にも知られず化けもの姿で3年間お参りすると、願いがかなうとも言い伝えられ、大勢の化けものが街のあちこちに現れるようになりました。

現在では、道真公ゆかりの行列「天神はんくねり」をはじめ、多くの市民が参加する「にぎわい天神パレード」などが化けものとともに祭りに花を添え、地域を挙げた一大行事となっています。

■問合せ／郷土資料館 ☎25 - 2525

認知症は誰もがなり得る身近な病気です。もし不安なことがあったら、気軽にご相談ください。



〈高齢者交流センター〉

☎29・4180

高齢者交流センター

◆見守りネットに関する問合せ

◆登録の対象 徘徊等で行方不明になるおそれがある認知症の方等

◆登録の流れ

①登録の相談 事前に、お住まいの地域の地域包括支援センター、担当のケアマネジャー、本所長寿介護課、高齢者交流センターまたは各地域庁舎市民福祉課にご相談ください。

②登録の申請 地域包括支援センター職員が訪問の上、登録情報の聞き取り・写真撮影を行い、申請書を作成します。

※登録後は1年に1回、地域包括支援センター職員が登録者の状況を確認し、登録情報を更新します。

③鶴岡警察署に登録情報を提供

◆行方不明になったら、すぐに警察へ110番通報を 警察が直ちに行方不明者の登録情報を基に捜索します。また、行方不明者の家族等に状況を確認の上、本市や捜索協力登録機関等に情報を配信。地域ぐるみで見守り・声掛けをして、早期発見につなげます。